

火星が中接近

～ 火星が見ごろ ～

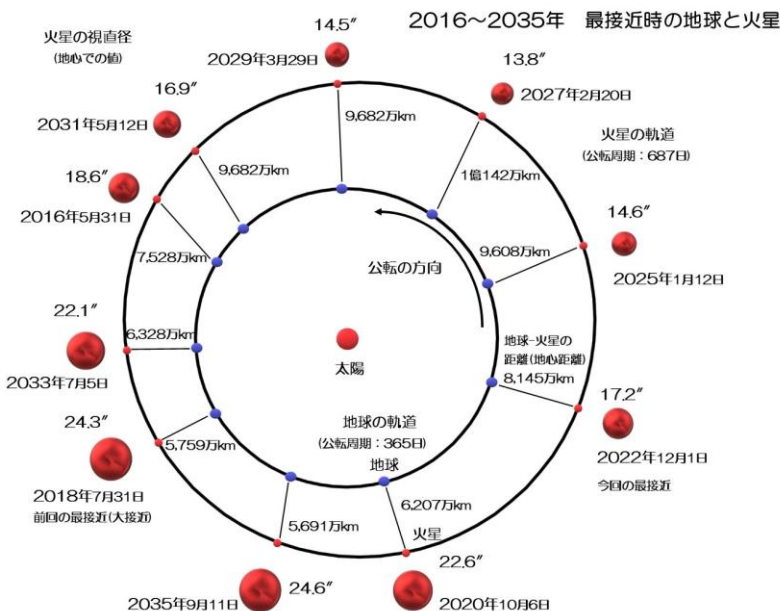
2年2ヶ月ぶりに火星が地球に接近します。今回は中接近と呼ばれる接近です。12月、1月と火星の見ごろが続きます。

火星ってどんな星？

火星は地球のすぐ外側を回っている惑星です。大きさは地球の約半分（直径：6,792.4km）で、公転周期は約1年11ヶ月（687日）です。北極、南極にはドライアイスで出来た極冠があり、1万mを超える山、オリンポス山があります。昔は水や空気があり、生命が誕生していたのでは、とも言われていました。現在、探査機キュリオシティが探査をおこなっています。



今回は中接近 ～ 火星の接近はなぜ起こる？ ～



地球は1年、およそ365日かけて太陽のまわりをまわっています。火星は地球の外側を687日、約1年11ヶ月かけて、太陽のまわりをまわっています。それぞれのペースで太陽のまわりをまわると、2年2ヶ月おきに地球と火星の接近が起こります（左の図、接近前後の数ヶ月間は見ごろが続きます）。そして、火星の通り道はゆがんでいるので、接近した時の距離が変わります。そのため、火星大接近が起きるのは、15～17年に1度しかありません。ちなみに次回の火星大接近は2035年です。

火星の見つけ方

21時ころ、東の空を見てください。赤くて明るい星を見ることが出来ます。現在は、冬の星座「おうし座」の角のあたりに見ることが出来ます。明るさがマイナス1.5等、ということでかなり明るく輝いています。しかも赤い色をしているので、非常に目立っています。

イベント情報

宇宙ふしぎ探検「中接近する火星を観察しよう」と題してイベントを行います。

日時：12月1日（木）～4日（日） 各日20:00～20:50

参加費：大人(高校生以上)600円、小人(小中学生)200円（入館料と観望料として）

定員：25人（事前予約が必要です）

その他：雨天曇天の場合はプラネタリウムを使って、火星や見ごろの星座などについて説明をします。